

おも 7. 思いやり

あい か てい おそ
愛は、家庭で教わらなかつたら
よそで学ぶのはムズカシイ。
まな



- ピンチのときこそ、家族の絆が試される。
か ぞく きすな ため
- 親が子に期待するのと同じくらい、子は親に期待している。
おや こ きたい おな こ おや きたい
- 子どもは親の姿を見て学んでいく。
こ おや すがた み まな
- 人からもらう幸せだけでなく、人のためにできる幸せもある。
ひと しあわ ひと しあわ
- いじめは人間として恥ずかしい行いだ。
にんげん は おこな
- みんなそれぞれが世界でたった一つの命なんだ。
せかい ひと いのち
- だれもがよりよく生きようとしている。
い
- いい本に出会うことは、いい人に出会うことに似ている。
ほん で あ ひと で あ に
- 人を差別するような子にはなってほしくない。
ひと さべつ こ

ピンチのときこそ、 家族の絆が試される。

子どもの成長につれ、子どもの生活する世界は家族を越えてますます広がり、人間関係においてもさまざまな経験をするようになります。順調なことばかりでなく、いろいろな悩みにぶつかることもあるでしょう。

そうしたときに家族のやさしさや思いやりがあると、それがはげましになり、子どもにとっては勇気をもって、問題を解決する力にもなるでしょう。そしてさらに、人々と思いやりをもって接する心をはぐくみ、人との友好的な関係を築く力をはぐくむことにもつながるでしょう。



まず、家族で思いやる



おや こ き たい おな **親が子に期待するのと同じくらい、** こ おや き たい **子は親に期待している。**



おや こ おも あ まえ おも
 親が子を思いやるのは当たり前とされていますが、ど
おや じっさい こ おも
 れだけの親が実際に子どもを思っているでしょう。

おも
 思いやりとは、こ子どものことをよく知ることです。よく
みみ かたむ こ なか せ かい り かい
 耳を傾け、子どもの中の世界がどんなものなのかを理解し
じ ぶん おも とお こ せ かい
 ようとし、たとえ自分の思う通りでなくてもその子の世界
う い
 を受け入れることです。

こ そんざい かんしゃ そんけい あいじょう ふか
 子どもの存在に感謝し、尊敬をはらい、愛情を深めてい
おや こ かんけい ふか
 くことによって、親子の関係は深まっていきます。

おも こころ せつ こ あんしん
 思いやりの心をもって接すれば、子どもは安心し、いじ
なや し ぜん う あ
 めなどの悩みも自然に打ち明けられるようになるはずです。

こ おも **子どもを思いやる**

こ どもは 親の 姿を 見て まな 学んでいく。

おや かんしゃ おや おも こころ ひろ た にん おも こころ
親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心
もと たいせつ おや みずか おや そ ふ
の基となる大切なものです。まず親が自らの親である祖父
ぼ たいせつ すかた み こころ
母を大切にする姿を見せることを心がけましょう。

おとな みずか おや せつ かた おも しゃ
大人たちは、自らの親への接し方や、思いやりのある社
かい なに ひつよう こ じしん と
会のために何が必要かについて、子ども自身から問われて
いるのだということを考えましょう。



ふ せ けいさつ か わちけいさつ ひらおかけいさつ
～布施警察・河内警察・枚岡警察より～

「おじいちゃん、おばあちゃんをみんなでまも 守ろう！！」

おおさか ふ か こと ば たく こうれいしゃ かね と とく
大阪府下では、言葉巧みに高齢者のお金をだまし取る特
しゅ さ ぎ じ けん た はつ まご せ だい ふく か ぞく
殊詐欺事件が多発しています。孫世代を含めて、家族ぐる
みでのちゅうい かん き
注意喚起をおねがいします。

おや そっ せん そ ふ ぼ たい せつ
親が率先して祖父母を大切にする

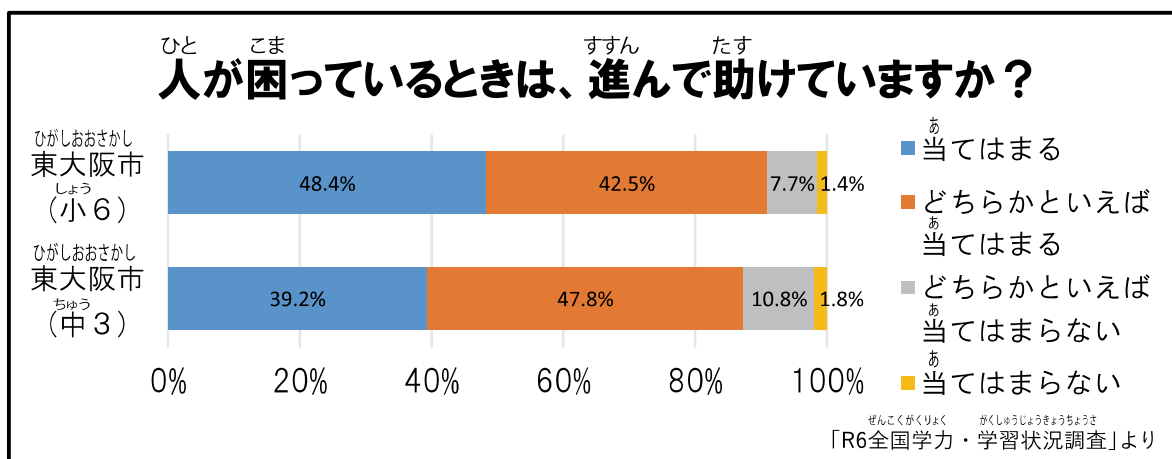


ひと 人からもらう幸せだけでなく、 ひと 人のためにできる幸せもある。



ひと おも 人を思いやり、こうどう 行動するあいじょう 愛情やゆう き 勇気をもったひと ひと 人に育てるためになに 何ができるでしょう。

おも 思いやりのこころ 心は、こ 子どものころからのにちじょう 日常におけるじっせん 実践を通してはぐくまれます。まずおや 親がそっせん 率先してやってみせながら、こ 子どもたちがし 自然にぜん 妊婦やにんぷ 高齢者にこうれいしゃ 高齢者にせき 席をゆず 譲ったり、しょうがい 障害のあるひと 人などがこま 困っているときにこえ 声をかけたりすることができるようにしつけを行うことが大切です。



おや そっ せん ひと だす 親が率先して人助けをする

いじめは人間として恥ずかしい行いだ。

いじめは、ひれつな行いおこなです。悪いのはいじめる子どもわるであって、「いじめられる側がわにもそれなりの理由り ゆうがある」などということは全くのまちがいです。

いくら軽い遊びかる あそや悪ふざけわる、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみ痛みがわ くるは時には死いたを覚悟ときするほど深刻なものです。いじめをはやし立てたり見て見ぬふりし かく ごをすることも同じである、ということしんこくを家庭たの中できちんと話しあいましょう。そして、自分の子どもみ みがいじめをしているとわかったら、必ずおなすぐにやめさせてください。

逆に、子どもがいじめにあっているのではと感じたら、すぐに子どもと話し合いましょう。心の優しい子どもかほど、いじめにあいやすく、誰だれにも悩みなやを打ち明けられないことがあります。また、日頃から子どもう あに対して、必ず守ってあげるから、少しでも何かあったら話すように、と言こってください。子どもの一つ一つの行動ひとをよく見られるのは、家庭以外ありません。子どもの示す小さな変化こうどうをみつけ、子どもの悩みや不安みを受け止めてあげてください。いじめられていることが分かったら、すぐに、学校か てい い がいに連絡こしましう。子どもを守るため、なにができるのか相談しめ ちい へん かしましう。

家庭でもいじめについてしっかり考える



みんなそれぞれが世界で たった一つの命なんだ。



身近な人の死をまのあたりにすることが少なくなったり、
殺人を繰り返すテレビやゲームなどで虚構の死に慣れたり
して、命の重さやかけがえのなさを感じにくくなっていま
す。

自然の中の体験活動に参加させたり、動物や草花を大切に
育てたりするなど、さまざまな生き物とその死にふれる
機会を意識的に用意し、子どもに生命の尊さや大切さを実
感させましょう。

また、亡くなった人の家族や傷つけられた人の気持ちを
想像させるなど、その悲しみがどんなに深いものかを理解
させましょう。



子どもに命の大切さを実感させる

だれもがよりよく ^い生きようとしている。



^{しょうがい}障害がある^こ子どもたちがいます。

^{しょうがい}障害がある^こ子もない^こ子も^{みな}皆、よりよく^い生きたいと^{ねが}願っている「^{たいせつ}大切な^{なか}仲間^ま」です。

^{しょうがい}障害があっても^{しゃかい}社会で^{かつやく}活躍している^{ひと}人がいることなど、
^ひ日頃^ごろから^{かてい}家庭の中で^{なか}子どもに^こ話して^{はな}いきましょう。

^{しょう}障害^{がい}がある^{ひと}人も、^{ひと}ない^{ひと}人も、
^{たい}大切な^{せつ}仲間^{なか}であると^ま教える^{おし}



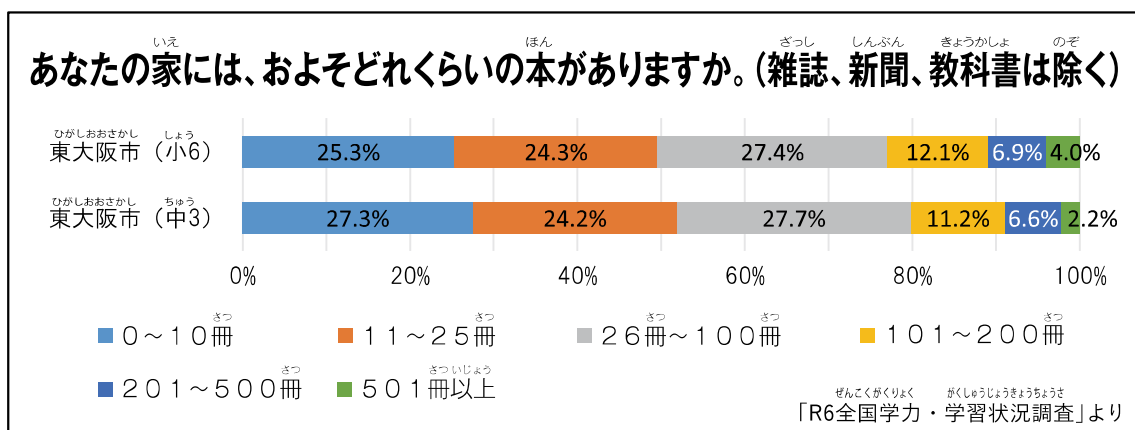
ほん であ いい本に出会うことは、 ひと であ に いい人に出会うことに似ている。



どくしょ そうぞうりよく かんが しゅうかん み ゆた かんせい
 読書は、想像力や考える習慣を見につけ、豊かな感性や
 おも こころ
 思いやりの心をはぐくむことができます。ですから、テレ
 ビやマンガが好きな子にも、本を読む時間をもつように家
 てい しゅうかん
 庭で習慣づけたいものです。

لذلك にも、食事の時間のように「読書の時間」を設
 ける、親子で図書館に行く、一緒に本を読むなど工夫し、
 子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけをつくりましょ
 う。

また、読書を通じて子どもが感じたり考えたりしたこと
 に耳を傾け、話しあうなど、親子の会話を増やし、深め
 るきっかけとして読書を活用することも大事です。



かんどう ほん であ たいせつ
 感動する本との出会いを大切にする

人を差別するような子には なってほしくない。



親は、子どもがいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気づいたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈であれこれ言うより、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、人をいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを喜ぶことに怒りを感じたこと、二度としてほしくないことなど親としてのほんとうの気持ちを伝える努力をしましょう。

また、まず親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示していくことが大切です。

差別をしない偏見をもたない子に育てる